

サポートセンター通信

No. 58

発行日：平成27年7月15日 第58号

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2階
TEL/FAX: 0263-88-2988
Mail: support-center@support-center.jp
URL: http://www.support-center.jp

ぼくらの学校 2015

市民活動フェスタ 2015 in 松本「ぼくらの学校」を10月3日(土)・4日(日)の2日間、あがたの森文化会館・公園内並木道を会場に開催することになりました。

第1回実行委員会では、昨年度のスタイルを基本に実施することが確認され、実行委員会有志で構成する企画会議では、高校生・大学生といった若者層への広報戦略や斬新なサブテーマ、さらに新企画として「ビブリオバトル」なども提案されており、今後の展開が楽しみになっています。

参加団体最終募集!

参加団体の最終募集を行いますので、参加希望団体は、別紙「参加申込票」を7月29日(水)までにサポートセンターへ提出してください。また、月1回サポートセンターで開催される実行委員会にも必ず出席をお願いします。

第2回実行委員会

7月29日(水) 19:00~

2014 団体ブース展示のようす(→)



松本ホタル学(まなぶ)会から

ホタルが舞う季節になりました。サポートセンターにも各地域から観察会の便りが届いています。館内のホタルMapには市内発生状況を8月末まで掲示しています。

7月3日(金)に開催された内田地区のホタル観察会には60名の地域の親子連れが参加しました。内田、松原2地区の公民館と児童館の協力もいただきながら実施して今年で3回目となり、内田支部を立ち上げることになりました。藤山静雄信州大学特任教授のホタルの生態についての学習会等、松本ホタル学(まなぶ)会の専門性を生かし地域の取り組みと連携を始めました。梓川地区でも今年から公民館と共催で学習会をスタートさせるなど、地域活動とのつながりを積み上げています。公民館が関わることで地域住民や学校への周知、地元の環境保全団体との連携も良好に進んでいるところです。7月10日には「梓川どんぐり村」との共催で観察会が行われゲンジホタルの乱舞を楽しみました。

サポートセンターがホタル学会と地域との橋渡しをして今年で3年目。昨今のホタル人気で地域からのお問い合わせが増える中、幼虫をもらえますか?という質問もあります。放流して一時楽しむだけでなく、その次の年も楽しめるよう“ホタルも棲める環境づくり”を広め、生物の多様性への関心が高まることを期待しています。



これからも地区公民館の協力を得ながら、地域の取り組み、地域組織の立ち上げを支援していきます。

(←)内田学習会のようす

傾聴ボランティア養成講座

今年も、プラチナサポーターズ松本との共催で、プラチナ世代支援セミナーとして傾聴講座が開催されます。講師に西澤聖長氏(長野いのちの電話事務局長)をお迎えし、お話し相手のボランティアの養成を目的としますが、自身のふりかえりの場としても人気の講座です。

【第1回】7月16日(木) 10:00~12:00

ボランティアの心得/社協ボランティアセンター

【第2回】7月23日(木) 10:00~15:00

講座ガイダンス、自己理解、他者理解

【第3回】7月30日(木) 10:00~15:00

聴く、話す、観察する、ロールプレイ

【第4回】8月6日(木) 10:00~15:00

・活動体験談と交流/傾聴ボランティア「日だまり」

の皆さん

・認知症の受け止め方/江森けさ子氏

(非営利特定法人峠茶屋グループすみか管理者)



登録団体アンケート お礼とお願い

サポートセンター開設10周年を機に実施した登録団体のアンケート調査は現在324団体中134団体から回答をいただきました。お忙しい中ご協力ありがとうございました。より充実した調査とするため回答期間を延長することになりました。未回答の方は、ぜひご協力をお願いいたします。

締切：7月31日(金)

6/2 しみんサロン・観光編 (第4回)

新しい観光ルートの掘り起しを目標に集まって4回目。歴史を極めると題し市川量造を切り口に参加者がそれぞれに調べてきた情報を持ち寄り発表しました。



6/3 ぼくらの学校実行委員会

参加を希望する登録団体により今年度の実行委員会が立ち上がりました。実行委員長には自然エネルギーネットまつもとの平島安人さんを選出しました。生徒会長として、ぼくらの学校 2015 を引っ張っていただきます。

6/11 プラチナサロン

この日の講座は歴史散歩・中町を歩く。講師の臼井光裕さんの案内で中町周辺の歴史的町並みや井戸を散策。住んでいても意外と知らない歴史秘話と新たな発見に感心しながら、ケーブルテレビの取材カメラも入り、参加者はいつにも増して張り切って活動しました。



6/30 まつもと震災支援ネット連絡会開催

昨年発足した東日本大震災避難者支援連絡会「震災支援ネット」が今年度第1回目の連絡会を開催し、今年の交流事業を話し合いました。26年度活動報告書「MATSUMOTO 夢つなぐ未来～共生へのキックオフ～」も刊行され、サポートセンターで配布しています。



7/9 ふれあいサロン

午前中の販売会には、障がい者就労施設5団体が出店して、来場者と会話を交わしながら自慢の作品を販売しました。午後の小松規美子さんの交流コンサートは回を重ねるごとに参加者が増え、今回は60人の方が集まりました。「障がい者が出かけられる娯楽の場は少ないからありがたい」と毎回楽しみにしてくれているようです。展示品をお互いに見学、購入し合い、頑張る姿に刺激される機会になっているのは嬉しいですね。



支える人たち

～なんなん日本語講座 柳澤 忠博 さん～

なんなん日本語講座

事務局:松本市多文化共生プラザ
TEL:0263-39-1106

日本国内に在住する外国籍の方々の増加に伴い全国各地に日本語教室が立ち上がり、松本でもボランティアによる日本語教室として「なんなん日本語講座」が始まりました。立ち上げから現在に至るまで活動を支える柳澤さんにお話を伺いました。

—講座が始まった経緯を教えてください。

「なんなん日本語講座」が始まったのは平成7年ですが、それ以前に、日赤松本乳児院に集まる外国籍の子育て中のお母さん達を対象に日本語教室が開かれていたのですが、南部にも拠点を開設できないかという話を受けて、当時私が「なんなんひろば」の館長だったときに発足しました。

—どんな方々がスタッフとして関わっているのですか？

現在、20代～70代くらいの「外国の方と関わりたい」という気持ちのある方が活動しています。資格なども問いません。ただ、日本語を使って日本語を教える場なので、「外国語を教えてもらいたい」といった方はお断りしています。

—どのように日本語を教えているのでしょうか？

日本での暮らしを含めて彼らの話を聞き、その中で日本語のサポートもしていくというイメージですね。スタッフに必要なのは「日本語を教えてあげる」という気持ちではなく、常に相手の方と対等に接することです。

—語学に特化した講座というわけではないのですね。

そうですね。言葉の習得を通じたマンツーマンの関わりから、日本での生活の悩みや技能実習生の労働実態など、今まで自分が暮らしていても知らなかった様々な問題が見えてくることがあり、まだまだ自分は日本のことを知らないのだと考えさせられます。＜教える＞＜教わる＞の関係ではなく、＜共に学ぶ＞活動なのだ実感しています。

—活動を通して感じることは？

外国の方との交流によって改めて私たちの住む社会のことが見えてくるということですね。これは当然と考えていたことも外国の方にとってはそうではないこともあります。もちろん日本的な考え方は大事ですが、日本社会の中で外国人はマイノリティー。彼らをどうやって尊重するか、歩み寄っていくか、多様性の中でどうすればお互い生活していけるか、ということを考えることが大切だと感じています。

普段目に見えないけれど確かに起こっている問題を意識して、みることの必要性を感じました。(インタビュー：なかがわ)

中信よりそいネットワーク

Tel : 090-9953-3238 (共同代表 : 柳谷 知之)

E-mail : tmk_yanagiya@nifty.com

「中信よりそいネット」は、東日本大震災後に開設された全国相談フリーダイヤル「よりそいホットライン」に関わった仲間が、より身近な地域で生活困窮者に直接かかわるセイフティーネットの必要性を感じて準備を始めた。共同代表のひとりである柳谷知之氏に立ち上げのきっかけや活動の目指すところなどお話を伺った。

ホットライン信州、手をつなぐ3.11信州、労協ながの、反貧困ネットワーク信州、多文化共生ネットワーク、生存を支える会(仮)から有志が集まる勉強会が2年前から始まった。匿名での電話相談を受けることの難しさと歯痒さを痛感していたメンバーによりネットワークは生まれた。それぞれの支援団体が出会ったことで共通の課題も見えてきた。生活困窮者は課題が絡み合い解決にも時間を要する。制度からこぼれた人を何とか救いたい。

そんな中で「福祉バンク」の構想は持ち上がった。一



般家庭や事業所で出されるリサイクル品を販売する事業所を就労の場として運営しようというもの。困窮者はバザーにきて必要なものを手に入れるだけではなくバザーの運営にも参加してもらおうという仕組み。運営に参加することで、支援する、支援を受けるということだけでなく対等な立場で居場所ができると考えている。

助けてほしいと声を上げられない人に対しては定期的にバザーを開催していることが口伝で、人伝で伝わっていき、バザーの場所が居場所になり、相談できる場所、相談できる誰かがいる安心な場所になると期待する。

現在、中心メンバー6名が月1回会議をもち、保管場所や賛同者を募りながら、松本地域における福祉バンクの開設準備を進めている。(やまぎき)

八ヶ岳中信国定公園美ヶ原高原パーク・ボランティアの会

Tel : 0263-34-8307 (事務局 : 松本市役所観光温泉課) Fax : 0263-34-3049

Tel : 0263-31-2807 (美ヶ原自然保護センター) Fax : 0263-31-2290

「パーク・ボランティアの会」の主な活動は3つある。市民向けに高山植物や美ヶ原高原から見える山の案内をする自然観察会、笹刈りなどの環境保全、研修のための登山や勉強会だ。近くのホテルや市の観光温泉課などから成る美ヶ原観光連盟と協働で美ヶ原の自然を守っている。代表にお話を伺った。

パークボランティアは美ヶ原自然保護センターを拠点に活動している。自然保護センターは美ヶ原の自然の特徴を紹介し、自然への理解を深めてもらうために設置された。3年前、センターに常駐職員がいなくなったとき、活動が危惧されたため有志数名で自主的に会を立ち上げ、現在、センターの機能をパークボランティアが担っている。登録メンバーは約50人で、うち1/4が女性だ。

美ヶ原高原で案内をするとき、訪れた人たちに発見の喜びを知ってもらいたいと言う。里にはない普通は気づかないような小さな花を紹介すると、とてもびっくりされるそう。「山の花は楚々としてひっそりと咲いている様子がいい。」と笑顔で語る。

ウメバチソウ(→)



ボランティアであるため、山の経験や植物の知識には差があるが、気楽な団体としてやっている。メンバー全員が自然観察指導員として登録し、積極的に案内している。資格の必要な山のガイドとは異なり、ガイド料などは取らず、交通費などは手弁当でやっている。

植生について課題は多い。高山植物の減少が明らかになってきている。鹿による食害や気候変動などが主な原因と考えられる。多くの人に自然への理解を深めてもらうことが大切である。美ヶ原高原の植生は、自然と美ヶ原高原を愛するパークボランティアの会の皆さんに支えられている。(おち)



イベント・募集情報をお寄せください。

サポートセンター通信やホームページで、イベント情報や募集情報などをご紹介します。



松本ひまわりの会 会報発送作業&懇親会

松本ひまわりの会は、ダウン症をもつ人たちとその家族の生活の質向上を目指し活動をしています。相談も受け付けます。お子様連れ、飛び入り大歓迎！是非遊びに来てください。

- ◆日 時：7月22日(水)・8月25日(火)
10:00~12:30
- ◆会 場：松本市民活動サポートセンター
- ◆問合せ：TEL:090-1124-6351 (辻) FAX:46-7153

相談

イベント

Matsumoto Toastmasters Club 10th anniversary Meeting & Party

松本トーストマスターズクラブ10周年を記念し、英語、日本語によるスピーチとエンターテイメントの集いを開催します。

- ◆日 時：8月22日(土) 13:30~
- ◆会 場：M-Wing 6F Hall (中央公民館6階ホール)
- ◆参加費：Free Admission (無料)
- ◆問合せ：Contact Us 080-3592-9716 (竹渕)
E-mail:buccha_m@yahoo.co.jp

信州ベンチャーコンテスト 2015

信州を元気にするビジネスアイデア・ビジネスプランを大募集します。

- ◆表彰内容：起業部門…賞金10万円
アイデア部門…図書カード3万円 ほか
- ◆応募方法：HPから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上事務局までメールにて提出。
- ◆応募締切：7月24日(金)
- ◆問 合 せ：信州大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (SVBL)
HP:<http://shinshuvc.wpblog.jp>

募集

募集

桜むね スタッフ募集

乳ガン患者のための術後用パッドの作り方を広める活動をしています。活動に賛同する方で、文書作成の事務(ワード、エクセル操作)を月2,3回お手伝いいただける方を募集します。多少手当あり。詳しくは面談の上。

- ◆問合せ：桜むね 080-3124-6312 (吉澤)

子どものいる家族のための離婚・別居・再婚相談

子どもの最善の福祉を尊重する立場から、実務経験を持つ相談員が離婚後の親子のあり方についてご提案させていただきます。

- ◆相談内容：離婚(別居・再婚)後の親子の交流・生活、その他、離婚(再婚・別居)に関わる全てに対応。
- ◆相談・受付時間/場所：ご相談に応じます。(無料)
- ◆問合せ：親子ネット NAGANO 事務局
E-mail:kodomokenri@gmail.com
TEL/FAX: 050-3468-3743

相談

しみんサロン・観光編(第5回)

今回は城下町400年の歴史を俯瞰し、現代に生きる城下町松本の今と未来を考えるイブニング講座を開催します。

- ◆日 時：7月28日(火) 18:00~19:30
- ◆会 場：松本市民活動サポートセンター
- ◆講 師：大石 幹也 氏 (松本衣デザイン専門学校
副校長、前松本市政策部長)
- ◆問合せ：松本市民活動サポートセンター
TEL/FAX:0263-88-2988

イベント

松本市社会福祉協議会 キャラクター募集

松本市社会福祉協議会のPRキャラクターを募集します。

- ◆賞 金：最優秀賞 賞金 50,000円 1本
優秀賞 賞金 20,000円 2本
- ◆応募方法：必要事項を記入の上郵送またはメールにて提出。
- ◆募集締切：8月15日(土)
- ◆問 合 せ：社会福祉法人松本市社会福祉協議会地域福祉課
TEL:0263-25-7311 FAX:0263-27-2239
HP:http://www.syakyo-matsumoto.or.jp/news/character_contest.pdf

募集

新スタッフ紹介

7月から避難者支援業務の担当になりました、坪根です。松本に来て4年になりますが、まだまだ知らないことも多々あり、松本は奥深きよい所だなあと日々感じています。一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。(つぼね)

編集後記

夏本番を迎えつつある今日このごろ、皆さまいかがお過ごしでしょうか。暑さにも負けず、今年も市民活動フェスタ「ぼくらの学校2015」に向け実行委員会が始動しました！現在参加団体を募集中です。活動のPRや上半期振り返りの機会としてお役立てください。(なかがわ)